

10. 支援機関の認知経路、支援機関来訪のきっかけ

若者自立塾、サポートステーションという支援機関を知った経路は「人から聞いて」が32.8%を占め、また来訪のきっかけは「自分から」が48.3%を占める（いずれも複数選択）。

Q20認知経路	
インターネット	17.2
テレビ番組／雑誌記事／新聞記事など	18.7
テレビ・雑誌・新聞などの広告	11.7
パンフレット	11.0
人から聞いて	32.8
その他	13.6

Q19訪問のきっかけ	
自分から	48.3
親や家族に言われて	38.0
友人にいわれて	2.9
学校の先生に言われて	1.4
その他	12.0

11. 支援機関の来訪者の特性

若者自立塾の来訪者とサポートステーションの来訪者との間には若干の差異が見られた。若者自立塾来訪者は、長期欠席、不登校、中退の経験をもつ者が多く、これまでの就職のための活動歴も少ない。いわゆる「あきらめ型」が目立つ。これに対してサポートステーション来訪者は、いったんは就労したものの、職場でのトラブルなどから退職したケースが多く、いわゆる「つまづき型」が目立つ。それぞれの支援プログラムによって支援機関の「使い分け」がされていると思われ、多様な支援プログラムが用意されていることに一定の意味があると思われる。

調査実施機関とQ15.3不登校のクロス表

	経験あり	経験なし	合計
自立塾	50.7	49.3	100.0
サポートステーション	29.9	70.1	100.0
合計	37.1	62.9	100.0

第二節 若者自立塾で支援を受けた若者に対する調査

1. 調査の視点

あわせて若者自立塾で実際に支援を受けた塾生および支援を受けつつある塾生409人に対して調査を実施した。この調査は、塾生のプロフィールを始め、若者自立塾の各種プログラムに対するトレーナーから見た評価、塾生本人の感想、および就業の成否などを調べた。調査方法はトレーナーによる面接質問紙法調査である。